

令和2年度 学校自己評価システムシート（県立松伏高等学校）

目指す学校像	学力の定着及び向上と、専門的な技術・能力の伸長を図るとともに、幅広い社会性を身につけさせ、地域に信頼され貢献できる人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程や学習指導計画及び授業の工夫・改善を進め、学ぶ意欲と学力を向上させる。 2 キャリア教育を進め、高い進路意識を育み、進路希望を実現できた生徒の割合を高める。 3 生徒会活動や学校行事の質を高め、部活動を活発化させる。 4 規律を重んじ、地域に信頼され貢献する教育活動を推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	5名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	14名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標			年 度 評 価 （ 2 月 1 日 現 在 ）				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習時間の絶対量が少ない現状が続いており、学習習慣の定着と学習時間増加のために組織的な取組が課題 ・現行教育課程の点検・検証と令和4年度実施の学習指導要領に基づく教育課程の作成が急務 ・教員相互の授業観察の参加率は向上している。引き続き、学び合いの意識を高めていくことが必要 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策下での授業時間数確保 	組織的な取組による生徒の学ぶ意欲と学力の向上及び授業力向上のための取組	<ol style="list-style-type: none"> ①教務部と進路指導部が連携し、長期休業中を含む進学等補習を計画・実施する。 ②年間行事予定を適時適切に見直し、授業時間数を確保する。 ③臨時及び長期休業中の課題等を工夫し、生徒の学習時間の絶対量を確保する。 ④授業再開後の小テスト・課題等を工夫し、生徒の学習時間の絶対量を増やす。 ⑤読書活動を活発化させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①開講講座数・受講生徒数が増加したか。 ②授業時間数確保のための取組ができたか。 ③④生徒の学習時間が増加したか。 ⑤本の貸出数・図書館利用が増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍でも様々な工夫を行い、例年並みの授業時数を確保し、生徒の学習保証をすることができた。 ①通年での進学補習を10講座、長期休業中の進学補習を7講座開講し、延べ140人受講した。 ②夏季休業の短縮、学校行事等の見直しにより、臨時休業期間で削減された授業時数を確保することができた。 ③④生徒アンケートの結果では、44%（昨年度+1P）が、毎日家庭学習を行っていると答えた。 ⑤「子どもの読書活動優秀実践校」の県推薦を受けた。また、全校生徒による本の貸出数は2,416冊（昨年度+659冊）と大幅に増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省のGIGAスクール構想を踏まえ、ICT機器の活用やBYOD（生徒が保有するインターネット端末の授業中における活用）を開始するための研究を学校全体で取り組む。 ・現行教育課程の3学年完全実施の年になるため、更に十分な点検・検証を行い、令和4年度から実施となる新教育課程につなげる。
		現行教育課程の点検・検証及び新教育課程の構築	<ol style="list-style-type: none"> ①教員と生徒を対象にアンケートを実施し、現行教育課程の検証を行う。 ②現行教育課程の点検・検証を踏まえ、新教育課程を構築する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①②2学科1コースの特色を生かした教育課程となり、生徒の進路希望等にこたえられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現行教育課程の点検・検証を踏まえ、新教育課程を策定した。 ①②生徒の多様な進路希望等に対応した令和4年度からの新教育課程を策定した。 	A	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学希望者に対する指導等を徹底することが必要 ・大学や看護医療系専門学校への進学希望者の補習参加率の向上 ・情報ビジネスコースが学級減のため、金融機関等の企業が求める生徒の指導育成と確保が課題 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策下での3年生の進路実現が課題 	進路実現に必要な学力的向上と系統的なキャリア教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> ①大学・専門学校等の最新の入試情報を集め、対応した指導を行う。 ②進学等補習内容を充実させる。 ③求人情報の集約方法を工夫し、求人数等の確保に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①②生徒の大学等進学希望が実現できたか。 ③就職希望者の内定率100%を達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間計画を大幅に見直し、系統的・組織的な進路指導を継続することができた。 ①②大学短大進学は計48名、同進学率27%（昨年度+7P）と増加した。 ①②大学共通テストに19名（昨年度4名）受験した。 ③就職内定率は12年連続100%を達成した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学補習や進路行事の充実等、進学指導を改善及び強化する。 ・オンライン環境を活用し、進路行事を充実させる。 ・引き続き、求人状況の悪化が見込まれるため、企業との連携を深める。 ・英検・漢検等の受検者指導を強化する。
		進路実現に必要な各種検定試験や高度な資格取得	<ol style="list-style-type: none"> ①各検定スケジュールの見直しに対応した対策を行う。 ②合格のための補習体制を強化する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①スケジュールの見直しに対応した適切な対策が行えたか。 ②各種検定合格者数が増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日商・全商簿記、珠算・電卓、情報処理、ビジネス文書等の各検定の合格者数が増加した。 ①②週休日等を含む各検定対策補習を計画・実施した。 ②上位検定の日商簿記3級に挑戦させ、8名合格した。 	A	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動は活発に行われているが、部活動加入率が低下している。特に、運動部の退部率が高くなっており、活動内容や運営を工夫することが必要 ・部活動ガイドラインに沿った活動計画の内容を工夫して実行することが課題 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策下での特別活動及び部活動の進め方が課題 	生徒会活動と学校行事の充実	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒会行事の精選と見直しを行う。 ②1学年に新たに学年委員会を設置する。 ③学年及び学校行事を通じて、生徒会役員候補の育成を行う。 ④生徒会役員の業務の精選及び見直しを行い、魅力化を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒会行事が円滑に行えたか。 ②③生徒会役員に1年生が増えたか。 ④生徒会役員の活動が効率よく行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍でも感染防止対策を徹底し、生徒総会等の生徒会行事を計画・実施した。 ①分校生徒との共生を目的とした人権学習、講演会及び「松伏スーパープレゼンテーション」を新規に実施した。 ②新たに1学年の学年委員会を発足した。 ③④生徒会誌「星霜第21号」を発行することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン環境を活用し、学校行事の実施方法を工夫する。 ・学校行事の中止及び生徒会活動、ボランティア活動の制限等で生じる課題を明確にし、解決する。 ・活動制限を踏まえ、部活動ごとに活動の効率化や目標設定を見直す。 ・「Google Classroom」等を部活動でも活用する。
		部活動の活発化	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動掲示板を活用し、各部の活躍を全生徒に周知する。 ②ホームページを活用し、部活動生徒の活躍をタイムリーに発信する。 ③アルバイトの申請方法等を見直す。 ④生徒会が中心となり、各部活動を巻き込んだ取組を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動掲示板が効果的に活用されたか。 ②部活動生徒の活躍を知らせる機会が増えたか。 ③各部の部員増や定着率増につながったか。 ④各部活動を巻き込んだ取組が実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活発化には至っていないが、加入率は84%（昨年度+2P）と増加した。 ①掲示板を2回更新した。 ②部活動実績の入力ホームを改善し、生徒会誌にも実績を掲載した。 ③「松伏高校のアルバイトについての学校方針」及び申請方法を見直した。 ④コロナ禍で制限がかかり、実施できなかった。 	B	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車マナーアップ推進校としての取組を強化 ・全職員による「その場指導」の徹底 ・ボランティア活動に積極的に参加する生徒は増えているが、偏りがある。多くが参加できる仕組みを作るとともに活動参加の意義を指導 ・部活動単位では、SNS等を利用した情報発信を行っているが、学校全体として新たな情報発信方法の工夫が必要 ・普通科や情報ビジネスコースは一定の志願者数を確保できているが、音楽科の生徒募集に関しては課題が多い。生徒募集につながる学校説明会の内容の工夫や改善や本校の魅力発信する新たな取組が必要 	生徒の命を守る交通安全指導の充実と挨拶・遅刻・服装等規範意識の醸成	<ol style="list-style-type: none"> ①全教員が、その場で改善させる「その場指導」を徹底する。 ②全教員が、生徒に「気付かせる指導」を徹底する。 ③実施方法を検討した上で交通安全教室を早期に計画・実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①整容指導違反者数が減少したか。 ②生徒指導件数が減少したか。 ③交通事故件数が減少したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通事故件数は増加したが、生徒指導件数は減少傾向を維持している。 ①②生徒指導件数は6件（昨年度-1件）、延べ人数は7人（昨年度-5人）と減少した。 ③交通事故件数は13件（昨年度+4件）と増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員による「その場指導」及び「気付かせる指導」を更に徹底する。 ・BYOD開始に伴う生徒の携帯電話等使用ガイドラインを周知徹底する。 ・オンライン環境を活用し、PTA活動や会議等の実施方法を工夫する。 ・学校説明会の内容等を工夫するとともに、生徒募集の広報活動方法を見直す。
		地域・保護者と連携した取組の推進及び本校の魅力の発信	<ol style="list-style-type: none"> ①「松高Times」と「部活動紹介」を定期発行し、地域の小中学校等に配布する。 ②ホームページを活用し本校の取組や諸活動をタイムリーに発信する。 ③本校の強みである進路指導の取組を文書等で積極的に広報する。 ④多くの在校生を関わらせ、生徒の目線で本校の魅力を伝えるなど、学校説明会の内容を再検討し実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①地域社会の一員としての自覚が持てたか。 ②松伏高校の特色や魅力を分かりやすく伝えられたか。 ③④学校説明会の参加人数と入学志願者数が増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍でPTA活動や地域交流が大きく制限されたが、PTA広報誌の発行や地域の小学校との交流はできた。 ①「松高Times」と「部活動紹介」を定期発行した。 ②ホームページ等を活用して本校のコロナ対策等を周知・公表した。 ③④定員制、座席指定、検温等、感染防止対策を徹底した学校説明会を4回実施し、参加者数は420人と減少したが、参加者アンケートの結果は良好であった。 	B	

学校関係者評価	実施日令和3年3月18日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも様々な工夫を行い、例年並みの授業の数を確保できたことは評価できる。 ・新しい学校生活の導入、ICTの活用を積極的に行ったことは高く評価できる。 ・本の貸出数が前年度に比べ40%近く増加したことは、生徒の学力向上に大きく寄与している。 ・家庭学習については予習復習の方法を指示したり、適切な宿題を課すなど、方策を立てる必要がある。 ・進路実現が目標以上に達成できたことは、大いに評価できる。 ・資格取得合格者の増加は評価できるが、進路実現や学習意欲向上につなげる更なる取組を期待する。 ・進路に係る連絡や情報提供については、保護者にメール等で資料を配布するなど新たな取組の必要がある。 ・コロナ禍の制限された中で、行事を工夫して実施できたことは評価できる。 ・アルバイトについての学校方針の見直しを行うなど、新たに工夫・改善したことは良かった。 ・部活動禁止期間が長かったので、今後どのような影響が生じてくるのか見定め対応していく必要がある。 ・コロナ禍での安全な学校行事の実施方法について、次年度も検討の必要がある。 ・一人一人の命の価値、松高生の魅力、社会の一員として役割を知ることが大切 ・交通事故件数増加した点が気になる。登下校時の安心、安全の確保、生徒自らが、交通ルールの意識を高める必要がある。 ・BYOD活用に関して携帯電話使用のガイドラインの徹底が必要 ・町や中高連携の行事が実施できない状況であったが、地域との連携は重視してほしい。